

農事組合法人ふるさと農園（旭町）

代表理事 中東多久夫

社長さんは
こんなかた

運送業から梨園経営へ。きっかけは浜田道の開通だった。消費の流出、浜田の経済の衰退を憂えた地域思いの情熱家。

農事組合法人ふるさと農園

事業内容 果樹栽培（赤梨）

島根県浜田市相生町3886
(0855)22-4357

（梨園）

島根県那賀郡旭町山ノ内

（規模）

梨園 12ha

地域経済を憂いて

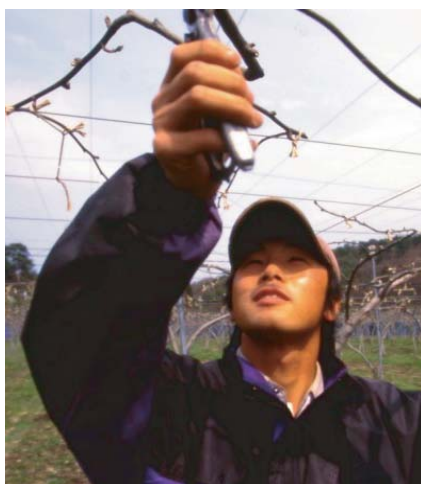
本業は運送業です。きっかけになったのは浜田道の開通でした。商工会議所の役員をしていたことから、地域経済の活性化についていろいろと研究をしていたので、浜田道の開通によって「便利になるだけではなく、何か経済にマイナスの影響もあるのではないか」ということを心配しました。

そこで、「若い人を地方にひきつける魅力のある産業を興せないか」と考えたのが始まりです。

苦労も楽しかった思い出に

平成2年6月に法人を設立、「山ノ内地区県営農地開発事業」による梨園34haのうち約1/3にあたる12haを購入、平成3年1月には植栽しました。

まったくの素人で、島根県浜田農林振興センターの指導を受けながらもいろいろと苦労はあったけれど、振り返るととにかく楽しかったという記憶が多い。何事も最後は自分で解決してきた自負があるからです。



独自のアイデアで勝負

梨の実を「効率よく実らせる」ためには剪定が肝心です。そのためには、枝の状況に応じて切る場所を見極める熟練した技が必要ですが、私はあえて一律のルールで切ることにしました。そのため、まず上手くできた量を100とすると、私の梨園はだいたい80くらいの収穫になります。ですが、おかげで素人のアルバイトにもできるようになり、人件費が下がったのです。

また、通常は一定の面積で効率よく植樹するのですが、私は作業に軽トラが入れるように間隔を広く植えました。

つまり、私が考えたのは「いかに多く収穫するのか」ではなく「いかに効率よく作業するのか」でした。この効果はコストだけではありませんでした。





作業員は県外から8名、将来は輸出

私の梨園では、作業の効率化を図ったため、熟練していなくても興味をもった若い人に参加してもらって楽しく働いてもらえます。現在の作業員は県外から20代の人が6名、30代の人が1名、50代の人が1名です。いずれも農業をやっていた人ではありません。みな楽しく働いてくれています。

こうした工夫のかがあって、失敗もいろいろあったけれど収穫も向上して、成果が出てきました。

今後は、観光農園も考えています。浜田道を通って県外からもぜひ来て欲しいと思います。

また、中国への輸出も考えています。ターゲットは中国に進出した日本企業です。